

赤羽根地域の声を 市政に反映 田原市赤羽根地域審議会

合併により設置された「田原市赤羽根地域審議会」の初会議が9月24日（水）、田原市役所赤羽根支所で開かれました。

この審議会は、旧赤羽根町地域の地域づくりに関して、住民の声を市政に反映させるため、市長の諮問機関として設置されたものです。委員は、赤羽根地域の校区総代表をはじめ、赤羽根地域に在住の各種団体の代表者や、青年・婦人層の代表者、学識経験者などから選出された10名で構成されており、今後5年間にわたり継続的に開催される予定です。第1回目の今回は、規約の承認や会長の選任などが行われました。その結果、会長には前赤羽根町長の^{おおば}大羽^{ぎいち}義市氏が、副会長には赤羽根校区総代の^{おおた よしかず}太田良和氏が、それぞれ委員の互選により選任されました。

会議の席上、白井市長は赤羽根地域における取り組みとして次のような課題を掲げ、各委員に理解と協力を求めました。

3校区に建設予定の市民館は、住民にとっていちばん便利な場所に市街化区域では、住民の理解を得て土地区画整理事業を進めたい
表浜海岸の整備は、委員会を設け保全と活用の両面から検討したい
3校区で、11月に行政懇談会を開催したい

環境共生都市 たはらエコ・ガーデンシティの 実現をめざして

協議会であいさつをする白井会長



9月29日（水）、「エコ・ガーデンシティ構想」の推進協議会が設立されました。この構想は、環境と共生するまちづくりをめざす田原市が推進しているもので、今年6月には、国の都市再生本部（本部長・^{こいずみじゅんいちろう}小泉純一郎首相）の関連分野のモデルに指定されました。協議会は、国・^{しほ}県・市の関係者、市民、事業者などの代表13名で構成され、会長には白井^{いこういち}孝市市長が選出されました。（関連特集記事を4～5ページに掲載）

1 第1回田原市赤羽根地域審議会を開催
2 「たはらエコ・ガーデンシティ構想推進協議会」が発足
3 （仮称）新リサイクルセンター建設に着手